

論壇

トランプラリーが減退

経済が元気なのか、それとも弱っているのか、どのような指標で見たらよいか。こうした質問をされたら多くの人が株価と答えるかもしれない。確かに、経済が元気なら株価は高くなるだろうし景気が悪くなれば株価は下がる。

ただ、株価は企業の業績を反映した数字であるし、現在の状況よりも将来の業績予想を織り込むという性格が強い。また、金融市場の動きなどに大きな影響を受け、振れが激しい。また、日本経済のごとくなら日本の株価を見るといいこともあるが、世界経済の場合に

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

注目される長期金利の動き

はい。いろいろな国の株価でどう判断するかという問題もある。

経済の専門家が注目するのは、株価に加えて、長期金利の動きである。長期金利とは10年物の国債の利回りで見ることが多いが、社債利回りや銀行のローンの金利などもそれに連動する。経済が活性化すると、この金利は上昇する傾向となる。資金需要が強くなるということもあるし、景気が拡大すれば物価が上昇してくるのでそれを反映した金利上昇ということもある。逆に経済が弱ってくると、金利は低くなってくる。

1年前、日本の長期金利はマイナスであった。日本銀行がマイナ

ス金利政策をとった影響もあるが、それ以上に重要なことは、日本の景気がそれだけ悪いということが大きかった。日本だけではな。欧州や米国の長期金利も非常に低い水準だった。世界的な景気低迷が金利に反映していたのだ。

昨年の9月ごろから長期金利は

上昇の方向に動き始める。日本では日本銀行が金利政策を変えたのでその影響と見られることが多いが、欧米でも金利は上昇を始めていた。そして昨年の11月の大統領選挙でトランプ政権の成立が決まると、米国で長期金利が跳ね上がった。選挙の前日から1日で、長期金利が大幅に跳ね上がったのだ。

トランプ政権で景気刺激政策がとられることを期待した市場の動きであった。デフレから脱却しつつあった欧州でも、金利は少しずつ上昇基調であったのだ。日本も含めて世界的な景気回復への期待感が広がった。

残念ながら、ここに来て、こうした景気回復への期待を反映した長期金利に変化が見られる。米国ではトランプ政権の政策実行力に疑問符がつく中で、トランプラリーと呼ばれる市場の上昇機運が減退してきた。これは米国の株価にも影響を及ぼしているが、米国の長期金利が低下を始めたことが気になる。

不穏な国際情勢要因か

日本でも、これを受けて長期金利が低下傾向を強めている。一時は0・1%近くまで上昇した金利が、この原稿の執筆時点では0%に限りなく近づいている。こうした金利低下と連動して、円ドルレートは円高に少しづつ動いている。市場関係者の中には、シリアへの米軍による爆撃、北朝鮮リスクの高まりなどが、世界経済に及ぼす影響を警戒する動きが、金利を低下させる要因となっている、という見方をする人もいる。

経済の先行きを予想することは難しいので、今後、金利がどのよう動くのか予想するのは難しい。ただ、金利の動きを見る限り、ここ1カ月ほどの動きは、あまり嬉しいものではない。不穏な国際情勢が経済に及ぼす影響について注視する必要がある。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。